

松本医院の治療方針「治すのは己の免疫だけ」が  
標準治療になりますように。

## 「完治までの道のり（リウマチ手記）」

匿名希望 41歳

2016年2月8日

平成22年1月、突然、右足の小指付け根を激痛が襲いました。1歳半の息子がようやく卒乳し、ほっとした矢先のことでした。その後も左足首の痛み、両手のこわばりが続きました。また、外反母趾が急激に進み、足指の付け根が真っ赤に腫れ、今までの靴が履けなくなるほどの痛みが出てきました。

そしてある日、突然、左肩が激痛で動かせなくなりました。近くの整形外科を受診しましたが、五十肩と診断されました。日常的に抱っこやおんぶをしているので、あちこちに疲れが出ているのではないかと安易に考えていましたが、今思えば、それらの症状がリウマチの始まりでした。

それから半年後、足指の痛みがひかなかったため、別の整形外科を受診しました。症状や血液検査の結果からリウマチと診断されました。「ああ、やっぱり・・・」と、原因不明の激痛がリウマチと分かったことで、ホッとしました。近親者にもリウマチ患者がいたので、そうではないかと、うすうす感じていたからです。

この頃には炎症が落ち着き、変形が始まっていました。現在では、早期発見、早期治療がうたわれています。発症から2年以内に強めの薬で抑え込み、寛解につなげる、それが標準治療です。重症化する前に2人目の子供を、と考えていたので、治療は先延ばしにしました。

平成23年9月、左手首に痛みが出ました。鍋を持ち上げることはおろか、洗濯バサミやズボンの脱ぎ履きもできないほどの痛みでした。しばらくぶりに受けた検査ではMMP-3が63から165に跳ね上がっていました。翌年5月、ようやく授かった子供を流産しました。これまで2度の流産を経験していたので、もう限界でした。幼い息子のために、せめて車イスや寝たきりの生活にならないよう、リウマチの治療を始めよう、そう気持ちを切り替えた出来事でした。

平成24年6月、子供の幼稚園入園を期に、リウマトレックスによる治療を開始しました。1度目の服用でMMP-3が120台にまで下がりました。「風邪は寝たら治るもの」「病気は気の緩み」と薬に頼りたがる人を半ば見下していた私にとって、意表をつかれた感じでした。こんなに効くのかと思いました。恐れていた副作用もその時はさほど感じませんでした。ところが、それ以降、一向に数値が下がらず、相変わらず鈍い痛みが残っていました。受診毎に2錠ずつ薬を増量されましたが、思うように数値が下がりませんでした。それどころか、胃のむかつき、吐き気で食事の量も徐々に減っていき、体重が激減、さらに体調を崩しやすくなっていました。

治療開始から10ヶ月、見かねたように、生物学的製剤であるエンブレムを勧められました。リウマトレックスと併用して最低2年間は続けること、個人差があるので何とも言えないが、症状が改善されれば減薬できること、副作用についてのパンフレットを熟読すること、と説明を受けました。2人目の流産の時、3度も病院をたらい回しにさせられたことによる憤り、1回に7~8万もする高額な薬を、治す見込みもないのに勧める医者、一生薬漬けのままなのか・・・、私の医者への不信感は頂点に達していました。それと同時に“この病気は絶対に自分が治す”と心に固く誓いました。信用できるのは自分の身体と直感だけ、そしてようやく「リウマチ完治」というブログから松本医院にたどりついたのです。治るのだという衝撃と、患者さんの体験談を目の当たりにして、興奮を抑えられませんでした。「これだ！」治したい一心で、翌日、松本医院を受診しました。

平成25年4月、松本医院で治療を開始しました。診察室では矢継ぎ早に質問を受け、松本先生のパワーに圧倒されました。最後は「絶対治るから」と手をとってくれ思わず涙がこぼれました。それからは、漢方薬、お灸、アシクロビルの薬が日課になりました。最初は起き上がれないほど体が重く、頭痛やめまい、足の痛みのリバウンドに悩まされました。幼稚園の役員を引き受けていたので、足をひきずりながら、園に通いました。しまいには、見知らぬ女性に「骨折しているようだから今すぐ病院に行った方が・・・」と、赤黒く腫脹した足首を見て声をかけられる始末でした。それでも何とかがんばれたのは、絶対治ると信じていたからです。私の場合、季節や天候、身体の調子により、日々の痛みはあるものの、激痛と寛解のような状態が半年毎にやってくるような感じでした。

平成26年9月、MMP-3が2桁まで下がると同時に、ようやく赤い発疹が体全体に出てきました。翌日には痒みもひき、それ以上酷くなることはありませんでした。私の場合、アトピーの症状よりもヘルペスによる頭痛やだるさ、神経の痛みの方が強いように感じました。自分の痛みが炎症によるものか、ヘルペスによるものか、煎じ薬は効いているのか、抗ウイルス薬は効いているのか、不安や迷いを感じながらの1年半でした。

この痛みや症状は自分の免疫が正常に働いてくれている証拠なのだ、と頭で

は分かっている、いつまでこの痛みが続くのか、先の見えないトンネルから早く抜け出したい思いでいっぱいでした。しかし、この2年で病気の本質、免疫の素晴らしさを学びました。息子も喘息やアトピーでしたが、薬に頼ることなく今は健康そのものです。食事や生活を見直し、長い時間をかければ免疫が勝手に治してくれるのです。目先の症状や痛みを抑えるだけの薬が蔓延し、医者も患者も安易にそれに飛びつきがちですが、それでは決して病気は治りません。また、医者も含め多くの方は、症状や部位だけで病名を細分化し、根本的な原因が一緒だということに気づいていないのではないのでしょうか。これだけ難病や特定疾患が増えているのに治せないのは、その一端ではないのでしょうか。

高い代償でしたが、目先の症状に一喜一憂することがなくなり、以前より気持ちも楽になりました。最後に、現在の標準治療と松本先生の決定的な違いは何か、それは「治すのは己の免疫だけ」という強い信念に基づいた治療です。無駄な薬を大量に処方する医者ではなく、本当に治したいという患者さんと真摯に向き合ってくれる病院を選択するべきです。それが他の医者を動かし、この国の医療を変えていくのです。途中、迷いや不安もつきまといます。私はしんどくなって、数ヶ月治療をさぼったこともあります。その後数値が大幅に改善されたので、息抜きも必要かな、とも思います。完治までの道のりはまだまだですが、ようやく頂上が見えてきたのでご報告させて頂きました。

	2013/4/28	2013/5/22	2013/7/3	2013/8/21	2013/9/20
CRP	0.11		0.4	0.47	0.55
血沈	21	30	22	20	35
MMP-3	102.5	112.1	114.8	136.2	129.7
リンパ球	21.6		22.5	21.5	23.1
VZV	18.6				

	2013/10/22	2013/11/19	2013/12/17	2014/1/22	2014/2/21
CRP	0.66	0.36	0.3	0.24	0.35
血沈	25	17	16	20	18
MMP-3	120.8	142.2	108.1	120.2	102.1
リンパ球	20.7	18.6	20.1		23.2
VZV					

	2014/3/26	2014/7/13	2014/9/27	2014/11/5	2014/12/9
CRP	0.58	0.25	0.44	0.27	0.24
血沈	23	14	20	15	23
MMP-3	145.9	153			122.7
リンパ球		23.6	21.2	22.1	25.2
VZV		22			15.9

	2015/1/4	2015/2/7	2015/4/11	2015/10/14	2015/11/13
CRP	0.3	0.12	0.54	0.1	0.28
血沈	20	14	15	10	20
MMP-3			135.6	73	96.4
リンパ球	32.9	24.7	23.3	31.6	27
VZV			17.9	38.7	

	2016/1/12
CRP	0.08
血沈	11
MMP-3	74.3
リンパ球	23
VZV	21.9